

土・まち・みどり

通信 第48号

2012.8.9

発行 NPO 法人土とみどりを守る会

連絡先 6421-2118 (事務局)

CONTENTS ◆総会・ミニ園遊会レポート ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて
◆第4回フラワーアレンジメント講習会報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

5月つどいレポート

総会・ミニ園遊会

5月19日に恒例の総会と5月のつどい・ミニ園遊会を、地主さんのご好意で2丁目の空地をお借りして開催しました。幸いにも前日の雨が通り過ぎ、爽やかな五月晴れのつどいでした。



(受付の風景)

総会

NPO設立後4回目、通算で10回目の総会でした。長瀬副代表理事による開会宣言の後、堀内代表理事が議長となり、議事が進められました。2011年度の活動報告、収支決算と2012年度の活動計画、収支予算を審議し承認を頂きました。2011年度は節約と会員数の維持拡大に努めた結果、役員からの借入金を全額返済でき財政の健全化を図ることができました。また新しい活動ではフラワーアレンジメント講習会と落ち葉掃きが軌道に乗りました。また地域外へ転居されることになった平野理事の退任と赤松理事の再任をご報告しました。



(花苗の販売)

ミニ園遊会

恒例のお菓子やおこわ・お赤飯の販売、花苗等の販売を行いました。昨年に引き続き日本支援の台湾茶と川俣町のお味噌の売上は出店者が東北に寄付さ



(パラソルの日陰での総会)

れました。写真展示では赤松理事による東北被災地の調査報告が掲示され多くの参加者が熱心に見ておられました。鮮やかに開いた3つのパラソルの日陰で、お茶とお菓子で交流の輪が広がりました。

ミニ園遊会は5月下旬に開催していますが、地球温暖化のためか、気温が高くなる傾向でお年寄りの方にはややつらい感じがします。来年は開催日を例えば連休直後にできないか検討したいと思います。出店された方々のご協力に感謝します。(鈴木)



(お店での会話)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

「昔のこと」

奥沢2丁目 大谷 初子

昭和26年、親子三人、この地(奥沢二丁目…当時は一丁目)に居を定めました。隣接する今の奥沢保育園がある場所は、畑で肥溜めがありました。奥沢神社から緑ヶ丘駅に通じる道は、車はもちろんのこと、夜ともなると全く人通りが絶えるさみしい道でした。

ある日の夜中、パタパタと音がして目が覚めました。戦後のまだ物騒な事件が起きていた頃ですので、緊張し、夫が箒を構え、私がさっと戸を開けると、飼っていた子犬の鎖が外れて濡れ縁を走る音でした。今では笑い話ですが、それほど怖いくらい静かなところでした。

現在の交和会は、以前は婦人会運営の卵やお菓子を売るお店があり、婦人会の奥様方が交代で店番をしていました。その向かいは、タバコ屋さんで、いつもきちんと着物を着たおばあさんが、数匹の猫とお店番をしていた姿が昨日のこのように思い出されます。通りを挟んでの向かいは、八百屋さんとお魚屋さんが並んでありました。

交和会とタバコ屋さんとの間の道を緑ヶ丘方面に行き、大井町線の高架をくぐり右へ曲がったところに、長男が通った幼稚園がありました。4歳児の長男が、10円玉を握っておまけつきのグリコのキャラメルを買いに行っても、何の心配もいらない町でした。子供たちの声が、にぎやかに響く町でした。

その長男も還暦を過ぎ、家も私たち夫婦も老いぼれました。

奥沢駅には、踏切を守る旗振りのおじさんがいました。今、駅前には噴水ができ、おしゃれになりましたが、都心に出て奥沢駅に帰り着くと、昔同様ほっとします。駅の階段がなく、少し行けば、草花を大切に作る家々に心が和みます。大きな樺の木や、我が家にもあったモミジの大木など、家の建て替えなどで、姿を消すことはさみしいですが、緑を守る会のように、この町を大切に下さる方々がいてくださることは、本当にうれしいことです。

「奥沢の風景」

奥沢2丁目 榎本 敦子

奥沢で生まれた私ですが、結婚してから10年ほど、北の地方に住んでいました。また奥沢で暮らすことになり感じたのは、四季折々の街中のそこそこに咲く花や緑の多いこと、特に桜の美しさ、秋から冬の季節の移り変わりの美しさ。

私が住んでいた土地では、桜は名所に観に行くもので、家の周りや街中どこでも見られるものではありませんでした。思えば、学生の頃も桜はそこにあり、当時はアメリカシロヒトリという黒い毛虫が大量発生して、声にならない悲鳴をあげながら、一步一步踏まないように歩を進めていました。今は平和に見上げられます。

北の地の秋は短く、雪虫が飛ぶと駆け足で冬が来るので、秋は気分の沈む季節でしたが、奥沢に帰ってきたら、キンモクセイの香り、徐々に色づき落葉していく桜やイチョウや花みずき・・・季節を感じる街歩きは、秋の魅力を再認識させてくれました。

また、最近、姪っ子が踏切の音に驚いたので気づいたのですが、あちこちで私鉄の地下化高架化が進んでいる中で、奥沢には地上を電車が走っています。田園調布駅から奥沢駅にかけてカーブを電車が上ってくるのは、「鉄道ファン」じゃなくても見飽きない光景です。我が家は東急3線の作る三角形の真ん中辺りにあるので、神社の前からは、運がよければ3線同時に見られます。そんな景色は今あまりないと思います。小さい頃は、踏切のおじさんがいたり、ストライキがあると学校帰りによく線路を歩いたりしたものです。今では有り得ないことですね。

昔と変わらず、奥沢駅から田園調布駅方面に向かう線路からも富士山が見えます。でも、昔より雪を頂くのが少ないと感じませんか。

最後に一つ、最近の奥沢からは、自由が丘と同じように、スカイツリーと東京タワーがちょうど同じ高さに見えます。ちょっと高いところから見てみてください。地球は丸い。

奥沢の歴史を訪ねて③

奥沢の字（あざ）について その3

（私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。）

今回は奥沢新田村の字（あざ）を紹介する。現奥沢4～8丁目に当たる。字名の地図は毎回載せているので、今回は奥沢全体の詳しい地図上で現丁目と字名を対比させてみて欲しい。

現5・4丁目から8丁目方向に紹介していくと、先ず奥沢神社の周り（現5丁目）は神社の旧名八幡様から名前を取り「八幡前」と呼ばれていた。この付近には縄文遺跡が点在している。

一方、目黒線の南側（現4丁目）は「赤坂（丸）」である。北に向かう傾斜面で赤褐色の関東ローム層が露出していたので付いた名前である。尚、奥沢本村「丸山」（現3丁目）との境界は銀座通りで、西側境界は八幡小学校に至る。

また、九品仏川沿いは「鷺ノ谷（さぎのや）」と呼ばれ、旧「沖ノ谷」の西部を主体として自由が丘駅の西側まで続いていた。字名は鷺草が自生していたから付けられたのであろう。

現5丁目で「八幡前」の西側地域は「佛山」と呼ばれていた。昔その辺りで仏像が見つかり、近くのお寺に納めたからといわれているがどこの寺に納めたかは分かっていない。

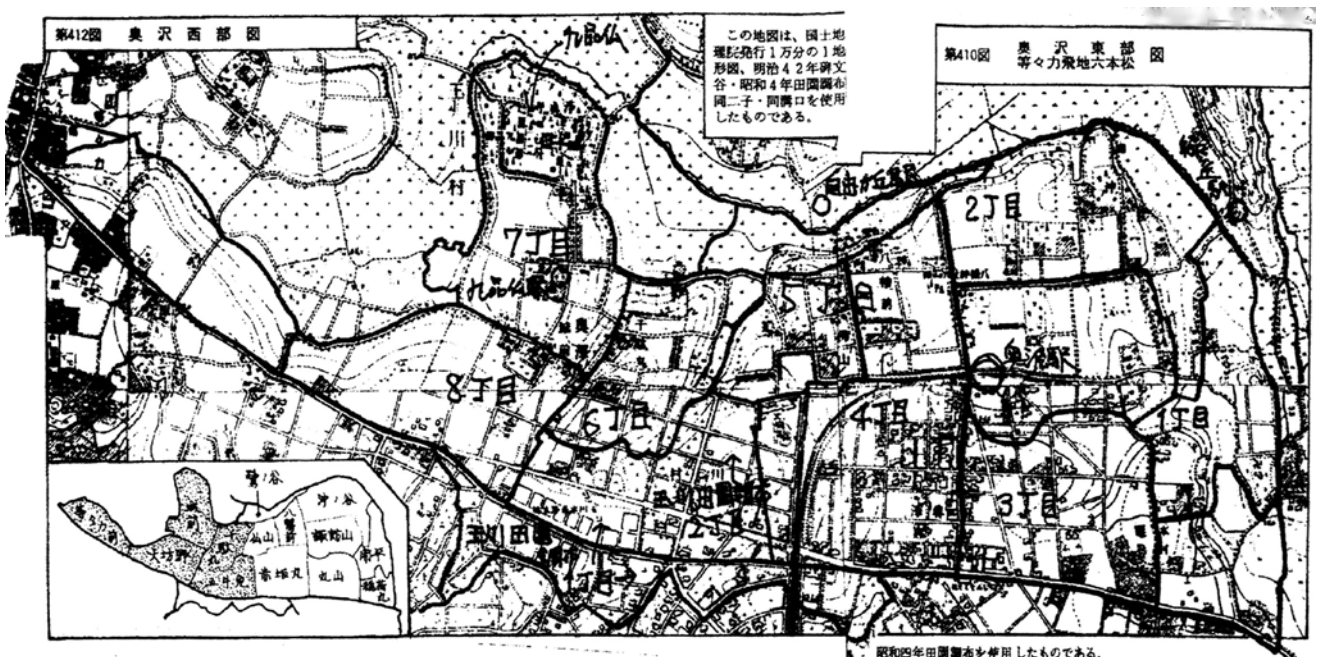
その西側、現6丁目の北半分は「千駄丸」である。

三方が急斜面で耕作に恵まれず、千駄とは雑木林で薪、炭、萱等を主に採取した土地だと考えられる。奥沢はこのように耕作に適さない荒地が多かったようであるが、奥沢に限らず世田谷区・目黒区共竹藪・山林・草地などが多かった。

また、奥沢6丁目の南半分と玉川田調布2丁目を合わせて「五斗免」という。乾燥し易い台地で租税が5斗免除されたかららしい。

現玉川田園調布2丁目の南半分は元等々力の飛地で「六本松」と呼ばれた。国分寺崖線上の細長い台地で自然林であったが、開墾の折残した松が6本、大木に育ったところから付けられた字名であろう。

浄真時及び九品仏駅周辺の現7丁目は「城前」という。多分元は奥沢城址の南側を指していたと思われる。その西側は「大坊野」と呼ばれているが、その先、奥沢の西端に当たる「等々力前」と「城前」は『新編武蔵野風土記』（江戸時代）には記載されてなく、「大坊野」だけしか記載されていないので、明治初年に新しく付けられた字名と考えられる。現在は尾山台・等々力に編入されている。昔は等々力駅近く迄奥沢に入っていたことがわかる。（赤松）
参考資料 世田谷の地名下巻世田谷九教育委員会編



第4回フラワーアレンジメント講習会報告

梅雨を思わせる雨空の中、佐藤暁美先生のフラワーアレンジメント講習会に参加させて頂きました。毎回、少ない花材で大きな広がり、イメージする講習会に驚き、楽しみましたが、今回テーマ「花束に一会の余韻を・・・」で、各人が葉蘭で小花類を手提形に包み、来客さんへのお土産をイメージして、メッセージを付けて完成でした。その後数人ずつのグループに別れ、くじ引きで種々の小道具を使い、自分達の今日の立ち位置を決め、話し合い、セッティングを初対面の方々とも盛り上がり、工夫し合いました。イメージはA班「エメラルドグリーン的大海・砂浜で遊ぶ子供達」貝や葉を沢山添えて・・・、B班「ラテン好きな食事会、テキーラも、踊りたくなる午後」マラカス、民族的な布、器を添えて・・・、C班「芝生の庭で毛氈敷いて野点、忙しさの中落ち着ける時間」竹や竹箆を添えて・・・、D班「八ヶ岳のセカンド

ハウス、山菜のフレンチ、ハーブティー」白樺、ガーデン用品を添えて・・・、グループがイメージの動機付けを説明しました。同じ花材、アレンジメントを使っても各グループが大変個性的に、大きな空間、世界を現し目を見張りました。先生の素晴らしい御指導の元、この様に個性を尊重して頂け、正に余韻を心に、楽しい一時を過せ、梅雨空も心晴々と成りました講習会でした。とても楽しかったので今後お友達をお誘いしたいな、と帰路思いました。(興石)



グループ作品の例

活動報告

●玉川消防少年団が、玉川地区の防災マップ作りのために、奥沢交和会に奥沢（2丁目と5丁目）の現状や歴史について取材に訪れました。交和会理事でもある鈴木が、グリーンマップを使って現状を紹介し、更に玉川全円耕地整理等の歴史をお話ししました。奥沢が、碁盤目状に区画整理され、みどりが多く、住民が協力的で、防災面からも良い街となっているが、最近では、ミニ開発によるみどりの減少、旗竿状敷地内の重層長屋の増加、街を囲む電車の開かずの踏切、住民の高齢化が課題になっていると説明しました。

●世田谷区は3回目の地域風景資産選定を2年度に亘って実施することになりました、既に「大ケヤキのある散歩道」と「奥沢海軍村ゆかりの風景」の選定を受け、住民交流、地域コミュニティづくり役立っています。3回目の選定作業で何らかのお手伝いをしようと思います。

会からのお知らせ

●今年のまちめぐりは、9月29日（土）に自由が丘駅に集合し、桜新町・深沢を歩き、歴史と地理を探訪します。多摩川から渋谷へ輸送された水道道路、奥沢よりも早く開かれた新町住宅地や秋山邸にみる深沢農業等、個々には有名な地域ですが、これらを繋いだ街づくりの歴史を辿る面白いまち歩きになるでしょう。チラシでご案内します。

●土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える年会費は1口1,000円です。活動に直接参加されなくても、会活動を継続的にご支援頂けると幸いです。どうぞ御協力をお願い致します。入会のご連絡は下記へどうぞ。

編集後記：平野理事がご家族の事情で離れた地域に引越されることになり理事を退任されました。平野さんは会の設立当初から会活動に積極的にに関わり、特に2005年に大ケヤキが伐採の危機には、住民有志による「大ケヤキを次世代に伝える会」の代表として、保存を求める署名、区議会への請願やケヤキ周辺の住民との話し合いをリードされ、樹木の保存に貢献されました。他にも台湾との文化交流に尽くされました。今後の新しい地域でのご活躍をお祈ります。(鈴木)

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-19-9 長瀬雅義 5729-0126

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

ホームページ : <http://tsuchimidori.net>

e-mail : info@tsuchimidori.net